

序 文

本増刊号では、透析患者における消化管疾患を特集した。透析患者において、消化器管疾患を考えることは、複数の点で重要である。すなわち、① 生命予後と関連する疾患であるということ、② 全身性の疾患で消化管と腎臓の双方に病変を生じる疾患が存在すること、③ 検査を行う場合に、腎不全の存在を考慮しなければならないこと、④ 透析患者において高頻度にみられる消化管疾患・合併症が存在することが挙げられる。

生命予後との関連については、日本透析医学会の統計調査にも示されている。表には、同調査の結果で、消化管に関連する疾患による死亡患者数を挙げている¹⁾。総計は約 1,600 人で、全死亡患者数の 5 % を占める。とくに、透析患者における消化管出血のリスクは高く、不良な生命予後との関連を示す報告もみられる²⁾。さらには、消化管穿孔による死亡リスクが高いこと³⁾、腸管虚血も重要な疾患であり長期的な生命予後とも関連があること⁴⁾ など、消化管の疾患が、透析患者の予後と深く関連していることが明らかになってきている。

全身疾患も、消化管と腎臓との双方に影響を及ぼす。たとえば、血管炎やアミロイドーシスは、消化管にも病変を生じる一方で、末期腎不全の原因疾患としても重要である。アミロイドーシスは透析開始後も病勢が進行し、同疾患を原疾患とする透析患者では対策が重要である。また血管炎についても、末期腎不全患者では、低

**表 2019 年死亡透析患者における死因のうち
消化管疾患による死亡者数**

死 因	人数 (人)
消化管・胆道系感染症・腹膜炎	185
胃の悪性新生物	247
結腸・直腸の悪性新生物	239
腸の血行障害	199
イレウス	101
消化管出血	389
被嚢性腹膜硬化症	7
消化管穿孔	131
その他の消化器疾患	111
総計	1,609
全死亡患者数	31,905

〔日本透析医学会：WADDA System ver 2.1¹⁾ より転載〕

率ではあるが、再発のリスクは存在し⁵⁾、疾患活動性の評価は、透析導入後も継続して求められる。

消化管疾患においても、さまざまな新たな検査・治療が可能となってきた。従来、検索が困難であった小腸病変においても、カプセル内視鏡や小腸バルーン内視鏡は、病変の検索を可能とし、バルーン内視鏡では治療手段も提供されてきている⁶⁾。消化器疾患領域においては、非常に広く使用されるに至っているこうした新たな手段について、各患者の透析治療に平素携わっている透析医・医療者が十分な知識をもつことは、適切な治療・ケアを提供するうえで必要である。それ以外にも、従来から、消化管の検査としてルチーンで行われてきた、上部消化管・下部消化管内視鏡においても、併用薬に関する注意、あるいは前処置についても、透析患者の特殊性の考慮が必要となる場合も多い。

透析患者において、食欲低下、口腔機能低下症、歯周病は低栄養や消耗に関連する病態の原因となる。また、胃食道逆流症、胃前庭部毛細血管拡張症、虚血性腸炎などもそれぞれ透析患者においてはしばしばみられる合併症として知られている。

本増刊号では、消化管疾患を基軸に、透析患者との関連、あるいは非透析患者における病態も含めて幅広く網羅し、多くの消化管を専門とされる先生方にご執筆いただいた。透析患者において、消化管疾患がみられた場合や、そうした疾患が疑われる場合の臨床上の問題点に、本増刊号から解答が得られることを確信している。

文献・参考 URL (2021 年 7 月現在)

- 1) 日本透析医学会：WADDA System ver 2.1 (更新日時 2021 年 3 月 30 日)。死因詳細，2019 年末患者，調査年死亡患者。2021
<https://www.jsdt.or.jp/>
- 2) Sood, P., Kumar, G., Nanchal, R., et al. : Chronic kidney disease and end-stage renal disease predict higher risk of mortality in patients with primary upper gastrointestinal bleeding. *Am. J. Nephrol.* 2012 ; 35 : 216-224
- 3) Yang, J. Y., Lee, T. C., Montez-Rath, M. E., et al. : Trends in the incidence of intestinal perforation in US dialysis patients (1992-2005). *J. Nephrol.* 2013 ; 26 : 281-288
- 4) Quiroga, B., Verde, E., Abad, S., et al. : Detection of patients at high risk for non-occlusive mesenteric ischemia in hemodialysis. *J. Surg. Res.* 2013 ; 180 : 51-55
- 5) Lionaki, S., Hogan, S. L., Jennette, C. E., et al. : The clinical course of ANCA small-vessel vasculitis on chronic dialysis. *Kidney Int.* 2009 ; 76 : 644-651
- 6) Nakajima, F., Furumatsu, Y., Yurugi, T., et al. : Investigation of small intestinal lesions in dialysis patients using capsule endoscopy. *Hemodial. Int.* 2019 ; 23 : 77-80

東京女子医科大学血液浄化療法科
花房 規男